

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸美容学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	中医診断実技		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2 年		学期及び曜時間	前期	教室名	実習室
担 当 教 員	稲垣 順也	実務経験と その関連資 格				
《授業科目における学習内容》						
証(東洋医学における診断結果)を確定するために必要な四診(東洋医学における診察法)について学ぶ。 前期終了後には、独力で四診の技術を向上させていけるだけの基礎を身に付けていることを目標とする。						
《成績評価の方法と基準》						
授業での取り組み方や提出物に対する評価点：30 % 期末評価：70 %						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
白衣 配布プリント						
《授業外における学習方法》						
授業で習った診察法を、自分自身や身近な人に対して定期的実践してみること。 特に、体調に変化が起こった時にこそ実践し、それまでの違いや、回復する途中の変化を確認してみること。						
《履修に当たっての留意点》						
診察結果を有効に活用するためには東洋医学理論への十分な理解が必要です。 実技の授業を通して理論への理解も深めていってください。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	「弁証」と「四診」について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。	
		各コマに おける 授業予定	「弁証」と「四診」についての復習 「弁証」の実際についての紹介			
第 2 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	「気血津液」と「臓腑」の各「病証」について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。	
		各コマに おける 授業予定	「気血津液」と「臓腑」の各「病証」の復習 教科書的な「問診」と「弁証」の実践			
第 3 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	東洋医学的に意味の有る問診事項について学び、その要点を踏まえた問診を実践できるようになる。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。	
		各コマに おける 授業予定	詳細な「問診」の実践			
第 4 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	「問診」で得られた情報を使って「気血津液弁証」を行う。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。	
		各コマに おける 授業予定	「問診」で得られた情報を使った「気血津液弁証」の実践			
第 5 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	「問診」で得られた情報を使って「臓腑弁証」を完成させる。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。	
		各コマに おける 授業予定	問診で得られた情報を使った「臓腑弁証」の実践			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標 「問診」で判明した症候の原因となっているものを特定する。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。
		各コマにおける授業予定 「問診」で得られた情報を使った東洋医学的な「病因」の特定		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標 爪と顔の「望診」について理解し、実践できるようになる。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。
		各コマにおける授業予定 爪と顔の「望診」についての学習と実践		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標 舌の「望診」について理解し、実践できるようになる。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。
		各コマにおける授業予定 舌の「望診」についての学習と実践		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標 「脈診」について理解し、実践できるようになる。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。
		各コマにおける授業予定 「脈診」についての学習と実践		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標 原穴の「切診」について理解し、実践できるようになる。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。
		各コマにおける授業予定 原穴の復習 経穴の触り方についての学習 原穴への「切診」の実践		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標 背部の「切診」について理解し、実践できるようになる。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。
		各コマにおける授業予定 背部兪穴の復習 経穴の病態と病変についての学習 背部への「切診」の実践		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標 腹部の「切診」について理解し、実践できるようになる。	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。
		各コマにおける授業予定 腹部の病態と病変についての学習 腹部への「切診」の実践		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標 「四診」と「弁証」の実践により、東洋医学的に病態・病位・病因を説明できるようになる。(1)	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。
		各コマにおける授業予定 「四診」と「弁証」の実践 (1)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標 「四診」と「弁証」の実践により、東洋医学的に病態・病位・病因を説明できるようになる。(2)	配布プリント	教科書『新版 東洋医学概論』の当該範囲を読み、参考にする事。
		各コマにおける授業予定 「四診」と「弁証」の実践 (2)		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標 期末課題において 60 % 以上の評価点を得る。	配布プリント	期末課題の完遂に向けて必要な準備を行うこと。
		各コマにおける授業予定 期末課題の完遂		